

# 東日本大震災 支援対策本部ニュース No57

編集発行 東日本大震災支援対策本部事務局

第9次医療支援帰鳥中

支援物資  
4品目  
停止

※支援物資は、被災地との調整のため  
停止させていただきます※

No.57 2011年5月2日12時30分

【支援状況】 5月2日現在、斎藤医師帰鳥しました/第9次医療支援チーム帰鳥中

鳥取生協病院 斎藤院長 無事帰鳥

## 非常にいい経験させてもらった



斎藤院長は、5月1日21時3分に鳥取空港に職員に迎えられ帰鳥しました。  
「非常にいい経験をさせてもらった。」と報告があり、皆木会長より労いのあいさつがありました。  
斎藤院長は、第9次医療支援チームとして医療支援に入り、救急外来などを積極的に活躍しました。

### 第9次医療支援チーム帰鳥のお知らせ！

4月27日に出発した第9次医療支援チーム  
5月2日16時ごろ、鳥取生協病院前に帰鳥予定  
※第9次医療支援チームの帰鳥を5月1日とお知らせしましたが、GWでの道路の渋滞の関係で帰鳥の日程が変わり、5月2日となりました。

### 今回、帰鳥するメンバー

鳥取生協病院6階病棟 木藤主任看護師  
鹿野温泉病院 小林看護師  
鹿野温泉病院 景山言語聴覚士

# お疲れ様でした！

齋藤院長よりレポート

支援1日目

ようやく岡山に着いて、食事をしようとしたが、店があまり無くて、なんとかうどの店を見つけて、遅い夕食をとった。サンライズ出雲が到着するまでたっぴり時間があった。プラットホームで待っていて、我々の乗り込む予定の3号車は無く、9号車より大きな番号しか無い。おろおろしていると後ろから、同じような列車がやってくる。ではないか、サンライズ松江と出雲と別々な列車が合体するのだと初めて知った。おかげで良い運動になった。

地震の夢を見ながら、列車に揺られて東京に着いた。民医連本部に聖橋(聖等)を渡っていったために、迷子になりかけたが、影山君のおかげで無事たどり着いた。さて大阪の保険協会の先生方が翌日のバスに変更されたため、総勢7人の豪華なバス旅行となった。那須高原サーブスエリアは福島のと真ん中だが、周りは全く平穏で、普通の旅行の方々も大勢おられた。ミニうどん定食を注文したところ、大盛り定食がやってきた。(もうけたが、多すぎて食べきれなかった。)



さていよいよ坂総合病院に到着した。途中いろいろいるビルは見えたが、看板だけで中が空洞の建物が続いていた。到着してオリエンテーションを受けたあと、夕方のミーティングまで時間があったので、すぐ近くで被害の甚大であった七ヶ浜をタクシーで見て回った。テレビの画面を通してみると、ちがって、圧倒的な重量をみせつけた。地域の人の歴史が、一瞬にしてかき消されたうえに、残っているがれきが、よけいに悲しみをます。

夜救急外来を通りかかると急患のことで相談があると呼び止められた。意識はしっかりしているのに、突然左上下肢の麻痺が起こり、今は少しずつ改善してきた女性がいるとのことであった。MRIでは脳には問題なく、胸部も大動脈の乖離もなさそうだが、椎骨動脈の乖離も無いようだが、なんだろうかと。診察をしてみると左の上下肢の筋力低下と腱反射でBicepsの反射は低下しているが、Triceps以下で左に強い著明な亢進が見られたところ、頸部の急性硬膜外血腫であると判明した。胸部のCTの上部、頸部のCTを見ると、かなり硬膜外血腫が映っていた。画像が小さくて最初は見逃していた。東北大学整形外科に転院とちあつたが、うまく診断ができなかった。初日から珍らしい症例にぶ

か緊張。

支援2日目

午前中多賀城文化センターという避難所巡りをした。約750人が避難しているが、体調が問題となる人は20人弱で、胃腸による経管栄養をしている人がいるということが初めてわかったり、全ての人の病状を完全に把握することはなかなか困難なようであった。今日は祝日であったので、診察はできず、お話を聞くだけのラウンドなので、ちよっと戸惑うことがあった。地域の医師会とそういう約束になつていないらしい。緑内障で点眼薬が無くなったが、病院に行く足が無く、困っているという人が2人いた。今のところは薬に関しては診察をした上で処方することしか手が無いとのことであったが、病気が必要だがもらいにいけない人について、何らかの手を打つ必要があると話した。また薬をうまく管理できない人もおり、何回か同じ種類の薬をもらったり、朝服用したかもよくわからない人もいた。そういう人について、申し送りによる認識の一致をはかることが重要と打ち合わせた。避難も長期にわたると様々な問題が出てくるようだ。

午後は救急外来の手伝いをした。縫合や、ガーゼ交換と行った外科仕事が主であったが、終わりがけにCPAが入った。千鳥橋の外科の先生がしっかりとしており、手早く挿管、モニター装着、胸骨圧迫交代もスムーズで手慣れている様子が見て取れた。しかし患者さんは結局心疾患でPEAのまま回復は得られなかった。

明日は文化センターのリーダーをやるようにとのことで2日目に、大役が回ってきた。なかなか緊張。

支援3日目

今日は朝から多賀城文化ホールへ救護所診療に行った。リーダーにはあるが、ほとんど外回りはできず、午前中一杯診療にあたった。といつても杯診療は視聴覚室の入り口を仕切って臨時の診察室にして、診療を行ったわけだが、暗い、狭いしあまりいい環境ではなかった。14名の方が来られたが、既に何度か受審歴があるひとが多く、風邪症状の方が多かった。粉塵の舞う所に床を敷いて休むことが2ヶ月近くなつていたので、のどもおかしくなるだろう。昼休みに近くの喫茶店に行ったところ、近くのおじいさんが地震の起こったときのことを話してくれた。車で来ていて、コーヒーを飲んでいたら、急に外に出たところ、車がボンボン跳ねており、しばらく乗れなかったらしい。あわてて家に帰ったとのこと。津波がこなくて運良く助かったようだ。そのおじいさんは私たちの仲間がいつもその店の前を通るのを見ていて、支援の仲間だと聞くと、あんたがたは天使のようだと話してくれた。この言葉を直に聞いただけで来た甲斐があった。

昼からは夜の当直に向けて、フリータイムをもらった。一緒にいった仲間の新幹線の切符を変更するために仙台まで出たが、仙台はいつもとかわらないくらい大勢の人でにぎわっていた。駅は工事中だったが、ほかは全くかわらないように見えた。

さでこれから夜勤だが、早速、脳幹梗塞のおばあさんが救急車でやってきた。脳外科疾患は転送するのが普通らしいが、転院しても、もう何もできないのでそのまま入院してみたらどうなるうちに2歳のこどもが2mのひさしから転落して来た。これはCTでは全く異常なかったが顔が腫れており、しばらく経過を見てから帰ってもらおうとした。この大きな総合病院で脳外科が無いのは残念だ。研修医は1、2、3年とも8名前後いるうらやましい限りである。今夜は3時まで当番。



さでこれから夜勤だが、早速、脳幹梗塞のおばあさんが救急車でやってきた。脳外科疾患は転送するのが普通らしいが、転院しても、もう何もできないのでそのまま入院してみたらどうなるうちに2歳のこどもが2mのひさしから転落して来た。これはCTでは全く異常なかったが顔が腫れており、しばらく経過を見てから帰ってもらおうとした。この大きな総合病院で脳外科が無いのは残念だ。研修医は1、2、3年とも8名前後いるうらやましい限りである。今夜は3時まで当番。